

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3970800144		
法人名	社会福祉法人 合歓木の会		
事業所名	グループホーム 第二日紅の家		
所在地	高知県土佐清水市グリーンハイツ42番1号		
自己評価作成日	令和2年1月10日	評価結果 市町村受理日	令和2年4月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>第二日紅の家は事業所ではなく大家族という方針で、利用者と職員が家族のように協力し、母体法人運営の幼稚園の園児達と日常的に触れ合い、昔ながらの賑やかな生活をしています。</p> <p>利用者一人ひとりの要望に合わせ、墓参り、美容室、買い物、病院受診等、日常的に出かけて、普通の暮らしを目指しています。地域にもボランティアや研修の場として開放したり、年に一度の盛大な秋祭りや炊き出し訓練を開催しています。</p> <p>母体法人代表者が、市社会福祉協議会が開催する福祉大会等に講師として招かれ、地域での認知症高齢者の理解を深めています。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action_kouhou_detail_022_kihon=true&JgyosyoCd=3970800144-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	令和2年2月19日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は高台の新興住宅地にあり、広い敷地内には四季折々の花木が植えられ、自然豊かな環境の中で、利用者は日常的に周辺の散歩を楽しんでいる。同じ地区に母体法人の運営の事業所が二つあり、3事業所合同で行事をしたり、運営推進会議や家族会を合同開催するなど、地の利を活かした活動を展開している。</p> <p>事業所が主催する秋祭りや災害対策の炊き出し訓練では、地域住民の参加者も多く、地域の行事として定着している。また、母体法人代表者を中心として、認知症であっても普通に生活できることを講演などを通して情報発信し、認知症高齢者の理解促進に努めている。</p> <p>職員は、「利用者とは家族である」という理念のもと、利用者一人ひとりができることを大切にケアの実践に努めている。利用者本位の、抑制はしない言葉使いにも職員間で気をつけ合っている。利用者は、「私がやらないかんね」と言って自らエプロンをし、食器洗いやテーブル拭き等を行っており、利用者職員との笑顔があふれ、和やかな雰囲気のある事業所である。</p>

自己評価および外部評価結果

ユニット名:

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>毎日のミーティング、ケア会議において、理念に沿った支援ができていないかを話し合い、母体法人運営の幼稚園、地域住民にも協力してもらい、理念にある地域住民との交流の実現のため、行事などを共同で行うようにしている。</p>	<p>理念は事業所内の職員が見やすい場所に掲示し、理念にもとづき、利用者ができることを大切にケアに努めている。抑制をしない言葉づかいに気をつけ、日々のミーティングやケア会議で振り返りを行って確認し、実践に努めている。</p>	
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>事業所の秋祭り、炊き出し訓練には地域住民に参加してもらったり、職員が地域の福祉協力委員、民生委員として地域での役割を果たしている。里帰りしたり、地元の商店を利用したりして、利用者や地域住民が交流する場面づくりをしている。</p>	<p>地区会に加入し、地区の清掃には職員が参加している。隣接する高齢者住宅の住民が散歩ついでに立ち寄り、利用者が近くの喫茶店を利用するなどの交流がある。近隣住民からの野菜のおすそ分けもある。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>事業所敷地内に公園を作り、地域住民がいつでも利用できる場所としている。地域に向き事業所の様子、取り組みなどの発表などを行い、認知症であっても皆さんと同じ生活をしているということを理解してもらっている。</p>	/	/
4	(3)	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>外部評価受審後は事業所で話し合いを持ち、反省点、改善点などを運営推進会議で報告し、参加者の意見を心得て改善に活かしている。</p>	<p>年6回のうち、3回は母体法人運営の3事業所の合同開催とし、事業所からの報告、外部評価の結果等が話し合われている。議事録は家族に送付している。参加メンバーに地域からの参加者がいないときがみられる。</p>	<p>地域との密着を目指している事業所であり、地域住民に身近なテーマや協議課題を準備するなど、地域からの幅広い参加者が得られる取り組みを期待したい。</p>
5	(4)	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>市の担当職員に運営推進会議を通じて事業所の内情を把握してもらい、分からないことがあれば相談している。認知症高齢者見守り支援員、ボランティア養成研修の場として事業所を活用してもらおう等、互いに協力し合う関係を築いている。</p>	<p>市の担当者とは、運営推進会議や介護認定調査等で日々関わり、困ったことがあれば相談している。また、事業所を活用してボランティア養成研修が行われており、お互いの協力関係ができています。</p>	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>職員は身体拘束廃止の研修会に参加し、勉強会を行って、身体拘束、さらに言葉の拘束について理解を深め、玄関の施錠の禁止、ベッド柵の禁止、その他の拘束はせず、その人らしく、本人の思いに沿った自由な暮らしを守る、安心して過ごせるケアを行っている。</p>	<p>外部の研修会に職員代表が参加して伝達講習を行い、2、3ヶ月に一度内部研修を実施して、言葉の拘束を含め、身体拘束をしないケアに努めている。玄関の施錠はせず、外出傾向の利用者も本人の動向を止めることなく見守り、職員が同行支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員で学習会の機会を多く持ち、虐待防止への理解を深め、利用者の日々の様子に変化がないか、言葉の虐待などがないかをしっかり確認し、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加した職員は伝達研修をし、利用者に当たり前の生活、安心して過ごせる生活ができるよう、権利擁護に関する制度を必要とする利用者がある場合には、職員全員が対応できる体制をとっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には事業所で対応可能な範囲を十分説明し、家族にも協力を求め、納得を得ている。契約改訂をする場合なども、しっかり説明して理解を得ている。納得のいかない家族には、納得のいくまで説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所便りで家族に日々の状況報告を行い、4ヶ月毎の合同運営推進会議で各々の事業所の家族の話聞くほか、面会時や電話等でも意見を聞き、利用者の不安、思いを察する努力をしている。利用者からも気軽に意見が言える雰囲気づくりに努めている。	利用者からは日々の関わりの中で、家族とは面会時や電話等で要望を聞いている。前回評価時の目標達成計画の取り組みとして、家族同士で話し合いを持つ機会をつくった。家族からは、外出の機会を増やしてほしいとの要望があり、対応した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長は毎朝事業所に顔を出して職員に声を掛け、管理者も日頃からコミュニケーションを心がけ、職員と話し合い、気軽に意見が言える雰囲気づくりに努めている。些細なことでも耳を傾け、より良い事業所づくりを目指している。	施設長、副施設長とも常に事業所を訪れ、職員と何でも言い合える関係にある。管理者もミーティング等で職員の意見を聞き、業務や尿取りパットの質の変更等の改善につなげている。利用者の新規受け入れについても、職員の意見を聞いて決定している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長は細やかな気配りで職員一人ひとりの様子を確認し、職員同士が交流する場を作っている。また、勤務日や勤務時間の調整についても、個々の事情に合わせて柔軟に対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの能力を活かし、伸ばせるような研修や資格習得などを積極的に勧めている。研修報告はケア会議の際に職員全員に発表し、常に勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3ヶ月毎の市グループホーム連絡会で意見交換をしたり、利用者同士の交流を図ったり、市内の在宅医療連携拠点事業、勉強会や研修会などを通じてサービスの質の向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規入所の利用者には寄り添い、求めていること、不安な思いなどを理解し、話す機会を多く持って、早く事業者や職員に慣れてもらい、本人のペースに合わせた居場所づくりをして、安心して過ごせられるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に家族から希望や悩みを聞く機会を設け、入所後も電話や手紙などで本人の日頃の様子などの報告のやり取りを行い、一緒に考え、協力してもらって、本人の思いに向き合った支援を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族と話し合い、以前利用していた事業所とも連携して情報収集を行い、導入段階で暫定プランを作成し、必要としていることを見極めたうえで支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は介護の提供者ではなく、生活のパートナーであるという理念に基づき、共に支え合い、本院の思い、苦しみ、喜びなどを知り、出来ることは自分でしてもらいつつ見守り、本人が安心して過ごせる居場所をつくっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員も家族の思いに寄り添い、何事も家族に相談し、時には面会に来てもらったり、外出や外泊などで一緒に過ごしてもらったりと、本人に安心してもらえるよう、家族との協力関係を保ちながら支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室、商店、喫茶店などに出かけたり、昔住んでいた家、知人、友人等の家に行ったりして、馴染み人や場の関係が継続できる生活を目指す支援をしている。	友人、知人が来訪の際には歓待して再訪を依頼し、馴染みの美容院、商店、喫茶店への同行支援など、馴染みの人や場との継続的な交流を支援している。また、外泊、自宅訪問などで、家族との身近な人間関係が途絶えないよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を把握し、気の合う者同士で座ってもらったり、おやつや食事時にも職員と一緒に多めの会話をもち、利用者同士の関係を支援している。利用者自身にも、元気のない利用者がいたら声を掛けてもらったりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所してからも家族から相談を受けたり、移転先に面会に出かけたりしている。また、事業所行事に参加してもらったり、季節の実りの品物を頂いたり、関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりのペースを重要視し、本人の意見を聞き、今やりたいことなどは個別に対応し、意思表示が困難な利用者には、日々の会話の中で感じ取り、家族や関係者からも意見を聞くようにして、それぞれの思いを大切にしている。	利用者一人ひとりの思いや意見を把握するためにアセスメント様式に記録し、利用者と日常生活の関わりの中で得た気づきや家族からの情報等を追加記録して情報共有し、ケアプランに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、知人等にこれまでの暮らし振りなどを聞き、生活歴を把握している。今までの生活と変わりなく、本人ができることはできるときに手伝ってもらい、穏やかに安心して生活ができるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者のちょっとした変化を見逃さないように努め、その日の状態によって介助の仕方も臨機応変に変えたりするほか、本人の得意分野や趣味などで、まだできる力を引き出せるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回の施設長も含めた職員全員参加のケア会議で話し合い、家族にも電話や文書で連絡を取り合いながら、家族、利用者より意向を聞いている。本人の状態に変化があれば家族、職員と一緒に話し合っ見直し、より良い介護計画につなげている。	ケアマネジャーのモニタリングを踏まえ、利用者、家族の思いを大切に、職員全員のケア会議で「本人ができること」にこだわって介護計画を作成している。見直しは3ヶ月を基本とし、本人の状態に変化があれば随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員全員に情報がいきわたるよう、毎朝のミーティング、申し送りノートを活用している。日々の様子、新たな気づき、状態の変化は必ず個別記録に記載し、職員全員が把握して、より良い介護を目指している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診時の報告、状態変化などを随時話し合い、家族とも相談しながら、柔軟な支援を心掛けている。本人が不安定な状態のときは、家族に電話で声を聞かせてもらったり、面会に来てもらうなどの対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの店に行ったり、一人で散歩に出かけた場合は地域住民が知らせてくれたり、ボランティアに来て歌や踊りを見せてもらったり、公民館、文化会館や地域などの催しに参加して、日々楽しみの場を持てるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望する医療機関を受診し、長期入院の場合には事業所との話し合いで退所にならないよう、支援している。また、かかりつけ医と連携をとり何でも相談できる関係を築いている。数日点滴が必要な場合は、訪問看護を利用している。	本人、家族の希望でほとんどの利用者が協力医をかかりつけ医としている。市外の通院を含め、職員が同行支援している。受診結果は家族に報告し、職員は口頭での報告と申し送りノートへの記載で共有している。週1回の訪問看護を利用して、利用者と職員の安心につなげている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護で利用者一人ひとりの健康状態を相談し、変化が見られたときには早期の受診を勧められたり、食事内容や生活上での注意点などを教えてもらい、病気の悪化を防いでいる。点滴が必要な場合は、事業所内でできる体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者入院時には、家族、病院、事業所ですぐ話し合いを持ち、利用者が安心して事業所に帰ってこられるよう職員もお見舞いに行っている。入院日数の問題や、治療内容、退院してからの生活の注意点など、何度も話し合えるような関係を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と話し合いを持ち、家族の意向、事業所でできることを説明し、家族の意向に沿った支援ができるよう取り組み、看取りの介護マニュアル作成して、職員は定期的に勉強会をしている。	入所時に利用者、家族に重度化や看取りについて事業所のできることを、できないことを説明し、事前確認書をもっている。看取りのマニュアルをもとに学習会を開き、管理者が外部研修を受け職員に伝達講習しているが、これまでは家族が入院退所を選択し、看取りの実績はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当などの講習会を開いて訓練を行ったり、応急手当マニュアル作成し、利用者一人ひとりの病歴などを把握して、緊急時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署協力のもと、地域住民や区長、民生委員に参加してもらい訓練を行っている。災害用水タンクの設置や非常食、ラジオなどすぐ手が届く所に用意している。災害を想定しての炊き出し訓練も行っている。	年2回避難訓練を行い、内1回は消防署立ち合いで地域住民の参加も得ている。また、災害時を想定した炊き出し訓練も毎年行っており、非常用備蓄は1週間分がある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの尊厳を大切に、否定はせず、本人を傷つけないような声かけ、自己決定しやすい言葉かけを行い、プライバシーに関する話題などは話さないようにしている。利用者の前では、こそこそ話をしないように気をつけている。	個人を否定しない言葉かけに配慮し、利用者個々の気持ちを損ねないように、本人だけでなく利用者同士の対応やテーブルの配置も工夫して、個人を尊重した介護を実践している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の好みを取り入れ、料理の献立や味見などに参加してもらったり、散歩、買い物に行ったりと、職員が決めたスケジュールを押し付けることはせず、必ず本人に決めてもらい、自己決定ができるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの体調に合わせて、起床、食事時間、外出など、その人のペースで過ごしてもらい、ホールでの配席も工夫して、一人ひとりが納得できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には自分で選んでもらい、季節感が出せるよう職員がフォローし、その人らしい身だしなみをしてもらっている。時には美容院に行ったり、出張理容を利用して、身だしなみや、おしゃれを感じてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの好みを聞き、嫌いなものは代替えて献立をたて、料理の下ごしらえ、盛り付け、後片付けなどを手伝ってもらいながら、職員も一緒に食事を楽しんでいる。時には外食したり、お弁当を作り外で食べるようにしている。	食の楽しみを大切にして、利用者と献立を考えたり、準備、調理、片づけのできることを一緒に行っている。職員全員が利用者と会話しながら食事をとっており、月1回、職員が作った弁当を持って花見に行ったり、外食を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量のチェック表を作り、多く摂取できるようにしたり、食事量が少ないときは好きなものを食べてもらい、さらに水分、食事摂取量の少ない利用者は個別のチェック表をつくり、訪問看護師にアドバイスをもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛けを行い、自力でできない利用者には職員が介助して、口腔ケアを行っている。入れ歯を管理できない利用者は、職員が朝まで預かっている。口腔ケアの重要さは、職員もしっかり理解している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食事前の声掛けと誘導を徹底している。利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、排泄の時には声掛けをしてトイレ誘導し、なるべくトイレで排泄ができるよう支援をしている。	「排泄はなるべくトイレで」をモットーに、利用者個々の排泄状況を把握し、声かけのみの利用者、介助だけの利用者、トイレ誘導の利用者等、個々に応じた対応で、トイレで排泄できる支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため植物繊維の野菜や、乳製品の摂取を心がけたり、水分補給をしっかりと行い、運動を増やしたり、朝食後などにトイレに座ってもらったりする取り組みを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日の入浴、本人の希望する時間帯、ゆっくり入りたい利用者は順番を工夫するなど、利用者の希望に沿って入浴できるように対応しており、入浴拒否のある利用者には職、員が交代したり声掛けの工夫等で入浴につなげている。	週2、3回の入浴の利用者が多いが、毎日でも入浴でき、時間帯の希望にも応じている。入浴拒否の利用者は、声かけの工夫で支援につなげている。ゆず湯や入浴剤の使用で、気持ちよく入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	外出したりすると気持ちが不安定になり、眠れない利用者などは職員が話し相手になったり、暖かい飲み物を飲んでもらったり、時には添い寝もしたりするほか、冷え症の利用者には夕方足浴を行う等、個々に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は職員が管理し、誤薬がないように服薬マニュアルを作成して、本人が確実に飲み込むまで見守っている。職員は用法、副作用を理解し、服薬が変更になったときはミーティング、申し送りノートなどで随時連絡をして、情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの得意なこと、興味のあることなどを活かし、本人から進んでやりたい、楽しみたいという気持ちになれるような場面づくりをしている。甘いものが好きな利用者には個別に用意をして、食べる楽しみを支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日には散歩をして、四季の花を探したりしている。また、本人の希望で買い物に出かけたり、昔住んでいた場所や、入院している家族のお見舞い、友人の家への訪問など、家族にも協力してもらいながら、できる限り戸外へ出かける機会をつくっている。	天気の良い日は、車いすの利用者も含め、ほぼ全員が事業所周辺の散歩に出かけている。利用者の希望に応じて買い物や数人でのドライブ、月1回は全員で季節のドライブに出かけるなど、積極的な外出支援が行われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことで安心する利用者もあり、本人の希望により少額程度を持ってもらい、買い物に出かけたときは自分で支払ってもらうようにしている。本人が持っていない場合は事業所が預かっていることを伝え、安心してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が家族に連絡を取りたいといときは、家族に電話の引き継ぎをして、いつでも連絡できる状態にしている。手紙が届くと一緒に読ませてもらったり、一緒に手紙を書いたりして、大切な人とのつながりが切れないよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木造平屋で、天窓からの自然の光が明るく部屋中を照らしており、ホールから見える大きな窓からは四季折々の草花が見え、玄関や食卓には季節の花や飾り物を飾っている。室内、ホールの温度調整を小まめに行い、季節に応じて過ごしやすいように心掛けている。	玄関には利用者が活けた花があり、雛人形の飾り等、四季を感じさせる工夫が随所に見られる。ホールは広く、明るく、利用者が思い通りに過ごせるようテーブル、ソファが配置され、穏やかに過ごせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの他に玄関先、庭に椅子をたくさん置き、日差しを浴びながらの散歩、畑で野菜づくり、得意な生け花を飾り、気の合った利用者同士長時間でも過ごせる空間づくりを行うなど、自由に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真、お気に入りの家具など、本人が希望する物はできる限り持ち込んでもらい、部屋に花を飾ったり、居心地よい生活ができるよう支援している。	各居室には、洗面台、トイレ、押入れが備え付けられている。入り口ドアには施設長と利用者が一緒に映した写真が飾られ、ゆったりくつろげる椅子やテレビ等が持ち込まれている。家族の写真、自分で活けた桃の花が飾られるなど、その人らしい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室に手摺をつけ、自分で移動できるスペースをつかってベッドを配置し、自分で交換ができるようトイレにパンツを準備したり、入口に写真を飾り部屋を分かりやすくしたりして、安全で自立した生活が送れるよう工夫している。		

ユニット名:

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が				
		○	2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				